



## 取手市議会が初の総合1位 “オンライン議会”で先進的 「議会改革度調査2020」ランキング 早大マニフェスト研調べ

地方から政治を変える取り組みを行う早稲田大学マニフェスト研究所は6月1日、都道府県や市区町村を含めた「議会改革度調査2020」ランキングTOP300を公開しました。

調査結果から、改革の取り組み度を表す順位は、**1位 茨城県取手市議会**、**2位 北海道芽室町議会**、**3位 兵庫県西脇市議会**となりました。コロナ禍でこれまでにない議会運営が求められた中で、“オンライン議会”の取り組みが目立った取手市議会が初の1位に輝きました。芽室町議会は昨年と同じく2位になり、さらに西脇市議会が3位となりました。各ランキングや取組の特徴はHPや以下に記載していきます。

□以下、当所のウェブサイト上にはTOP300まで掲載していますのでぜひご覧ください。

[http://www.maniken.jp/gikai/2020rank\\_sougou.pdf](http://www.maniken.jp/gikai/2020rank_sougou.pdf)

### ▼TOP3は1位 取手市議会、2位 芽室町議会、3位 西脇市議会

【1位】茨城県取手市議会	情報共有 04位／住民参画 02位／機能強化 01位
【2位】北海道芽室町議会	情報共有 06位／住民参画 01位／機能強化 06位
【3位】兵庫県西脇市議会	情報共有 02位／住民参画 18位／機能強化 09位

### ▽今年の特徴と傾向

- ✓ 2020年は、新型コロナによって「住民の意見を集めること（意見反映）ができない」「意見を持ち寄り話し合うこと（合意形成）ができない」「意見反映度・合意形成度の高い意思決定ができない」という状況が生まれ、これまでにない議会運営をすることが迫られました。
- ✓ そうした中、取組期待が高まっていた「ICT・タブレット活用」に代わって、「オンライン会議活用」へと取組を進めました。こうしたオンライン・デジタルの本格活用による議会活動の充実、さらに議会運営そのものや対住民とのあり方など、**議会のDX（デジタル・トランス・フォーメーション）**が特徴と傾向であり、今回の調査の評価視点に加えしました。

### ▼全体ランキングTOP30

01位	茨城県	取手市議会	11位	滋賀県	大津市議会	21位	秋田県	横手市議会
02位	北海道	芽室町議会	12位	新潟県	上越市議会	22位	大阪府	堺市議会
03位	兵庫県	西脇市議会	13位	栃木県	那須塩原市議会	23位	鳥取県	鳥取県議会
04位	岩手県	奥州市議会	14位	長野県	松本市議会	24位	石川県	加賀市議会
05位	東京都	町田市議会	15位	大阪府	箕面市議会	25位	北海道	別海町議会
06位	東京都	多摩市議会	16位	大阪府	大阪府議会	26位	兵庫県	兵庫県議会
07位	宮城県	柴田町議会	17位	茨城県	茨城県議会	27位	徳島県	那賀町議会
08位	三重県	四日市市議会	18位	神奈川県	横須賀市議会	28位	神奈川県	茅ヶ崎市議会
09位	福島県	会津若松市議会	19位	三重県	三重県議会	29位	北海道	福島町議会
10位	長野県	飯田市議会	20位	埼玉県	所沢市議会	30位	愛媛県	西条市議会

※調査の配点を大幅に変更したため、従来表記していた「前年度順位/前年度比」は割愛しました

≫次ページで**3分野・自治体・地域種別ごとの順位**をご紹介します

◇ 今後、「議会改革度調査2020」の新たな情報は下記早大マニ研HPで公開します。 ページ1/3

<お問合せ先> 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局：担当 長内、青木

TEL：03-6214-1315 E-MAIL：mani@maniken.jp HP：<http://www.waseda-manifesto.jp/gikaikaikaku>

≫前ページから続く (ページ 2/3)

【2020年度調査 区分ごとのランキング】 ≫詳細は HP : <http://www.waseda-manifesto.jp/gikaikaikaku>

### ▽3分野別順位

- ✓ **情報共有**：町田市議会がトップ。上位30位には、東京(6議会)、神奈川・大阪(各4議会)、北海道(3議会)から多くランクイン。
- ✓ **住民参画**：芽室町議会が昨年に続きトップ。上位に北海道・長野(各4議会)から多くランクイン。
- ✓ **機能強化**：取手市議会がトップ。上位30位には、三重・兵庫(各3議会)から多くランクイン。

情報共有			住民参画			議会機能強化		
01位	東京都	町田市議会	01位	北海道	芽室町議会	01位	茨城県	取手市議会
02位	兵庫県	西脇市議会	02位	茨城県	取手市議会	02位	岩手県	奥州市議会
03位	北海道	福島町議会	03位	徳島県	那賀町議会	03位	宮城県	柴田町議会
04位	茨城県	取手市議会	04位	神奈川県	茅ヶ崎市議会	04位	茨城県	茨城県議会
05位	大阪府	箕面市議会	05位	宮城県	柴田町議会	05位	三重県	四日市市議会

▽地域別順位 ※今回は地域ごとの順位を公開。それぞれの議会の取り組みの特徴等は、後日お伝えします。

北海道			東北			関東		
01位	北海道	芽室町議会	01位	岩手県	奥州市議会	01位	茨城県	取手市議会
02位	北海道	別海町議会	02位	宮城県	柴田町議会	02位	東京都	町田市議会
03位	北海道	福島町議会	03位	福島県	会津若松市議会	03位	東京都	多摩市議会
04位	北海道	栗山町議会	04位	秋田県	横手市議会	04位	栃木県	那須塩原市議会
05位	北海道	登別市議会	05位	岩手県	北上市議会	05位	茨城県	茨城県議会
中部			関西			中国		
01位	長野県	飯田市議会	01位	兵庫県	西脇市議会	01位	鳥取県	鳥取県議会
02位	新潟県	上越市議会	02位	三重県	四日市市議会	02位	広島県	呉市議会
03位	長野県	松本市議会	03位	滋賀県	大津市議会	03位	岡山県	岡山県議会
04位	石川県	加賀市議会	04位	大阪府	箕面市議会	04位	広島県	府中市議会
05位	富山県	南砺市議会	05位	大阪府	大阪府議会	05位	広島県	三次市議会
四国			九州・沖縄					
01位	徳島県	那賀町議会	01位	沖縄県	那覇市議会			
02位	愛媛県	西条市議会	02位	福岡県	北九州市議会			
03位	愛媛県	四国中央市議会	03位	宮崎県	小林市議会			
04位	香川県	高松市議会	04位	鹿児島県	鹿児島県議会			
05位	高知県	高知県議会	05位	佐賀県	佐賀市議会			

### ▽自治体種別順位

- ✓ **都道府県**：大阪府議会がトップ。総合ランキング300位以内の議会は昨年22議会から増え32議会に。
- ✓ **政令市**：堺市議会が昨年に続きトップ。総合300位以内の議会は、昨年12議会から増えて15議会へ。
- ✓ **中核市**：大津市議会が昨年に続きトップ。総合300位以内の議会は、昨年22議会から増え31議会に。
- ✓ **特別区**：墨田区議会が昨年に続きトップ。総合300位以内の議会は昨年3議会から7議会へ。
- ✓ **一般市**：取手市議会がトップ。上位30位には、三重(4議会)、岩手・京都(各3議会)から多く上位に。
- ✓ **町村**：芽室町議会が昨年に続きトップ。上位30位には、北海道・長野から各5議会がランクイン。

≫次のページに続く (ページ 2/3)

▽自治体種別順位

都道府県			政令市			中核市		
01位	大阪府	大阪府議会	01位	大阪府	堺市議会	01位	滋賀県	大津市議会
02位	茨城県	茨城県議会	02位	大阪府	大阪市会	02位	長野県	松本市議会
03位	三重県	三重県議会	03位	神奈川県	横浜市会	03位	神奈川県	横須賀市議会
一般市			町村			特別区		
01位	茨城県	取手市議会	01位	北海道	芽室町議会	01位	東京都	墨田区議会
02位	兵庫県	西脇市議会	02位	宮城県	柴田町議会	02位	東京都	大田区議会
03位	岩手県	奥州市議会	03位	北海道	別海町議会	03位	東京都	品川区議会

▼議会改革度調査 2020 について

【調査概要】 2021年2月中旬にメールや郵送で調査依頼を全地方議会に送付し、1,404議会が回答（回答率78.5%）した。回答の期間は2020年中が対象。2010年度から今回で11回目の調査となる。

【調査目的】

- (1) 全国の議会改革がどのような状況・傾向にあるか、数値で確認する客観的指標として活用する。
- (2) 議会自身で自己評価や改善をし、善い政治を競う「善政競争」を促す。
- (3) 議会改革の方向性を定め、次なる課題・ステージを提示する。

【調査の観点】 議会が果たすべき役割として3つの柱をあげ、改革度合を数値化し、ランキング化した。

- (1) 情報共有（本会議などの議事録や交際費・視察結果の公開具合と検証）
- (2) 住民参画（傍聴のしやすさ、議会報告会などの実施、住民意見の聴取）
- (3) 議会機能強化（議会本来の権限・能力を発揮するための機能強化状況）

【調査の変更点】

- ✓ 2010年の調査開始以来、各地で議会改革が活発になり、さまざまな取組が生まれました。こうした取組に対応し、設問が増えた経緯があります。しかし、議会改革の取組が進んでも、地域課題の解決や住民からの評価には繋がっていない議会があることも事実です。
- ✓ そこで、「住民の意見を集めて調査し・話し合い・決める」という議会本来のプロセスに照らし、設問の再構築を進めました。（設問数：'18年76問 → '19年67問 → '20年53問）
- ✓ これにより、議会が目指すべき「地域経営を実現しようとする議会」を評価する調査となっています。  
※調査の配点を大幅に変更したため、従来表記していた「前年度順位/前年度比」は割愛しました

＜取材のお願い＞7/7-8@早大大隈大講堂

「全国地方議会サミット 2021

改革から変革へ デジタルで議会が変革する」

全国の議員・事務局が一堂に会し「地方議会から日本を変える」ための場面転換をこの場から。

【登壇】ゲスト：平井 卓也（デジタル改革担当大臣）

北川正恭顧問、江藤俊昭教授、廣瀬克哉教授 等

【日時】7月7日(水) 13:00~18:00

8日(木) 10:00~16:00

【場所】早稲田大学大隈記念講堂・大講堂

【対象】議会議員、議会事務局職員、一般

【主催】ローカル・マニフェスト推進連盟/マニフェスト大賞実行委員会 【共催】早稲田大学マニフェスト研究所 【後援】全国市議会議長会

※詳細はこちら <http://www.local-manifesto.jp/gikaigiin/news/2021022500017/>



※会場定員：300名/オンライン参加 制限なし

◇ 今後、「議会改革度調査 2020」の新たな情報は下記早大マニ研 HP で公開します。 ページ 3/3

＜お問合せ先＞ 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局：担当 長内、青木

TEL：03-6214-1315 E-MAIL：mani@maniken.jp HP：<http://www.waseda-manifesto.jp/gikaikaikaku>